

あわいがふれる

Boundaries blur



幽明ノ境 2024年 | 絹、胡粉、墨、岩絵具、銀泥、風炉先屏風、貼り交ぜ | 490×490mm

幽明異境（ゆうめいいきょう）死に別れること。現世とあの世と、住む場所が違ってしまったという意。亡くなった者や離れて行ってしまった者と共に居ることは出来ないとかわっているが、共に在り続けたいと願い執着を募らせる。

KUNST ARZT では、初個展となる 碓栞奈の個展を開催します。

碓栞奈は、現世と常世の融合をテーマに現代幽霊画を制作する日本画アーティストです。

ドーザ液などの現象そのものを含めた日本画材の研究、繊細で巧みな描写力を通して、まさに幽霊の存在と非存在のあわいを表現しています。 (KUNST ARZT 岡本光博)

経歴

- 2000 静岡県生まれ
- 2024 第49期佐藤国際文化育英財団 奨学生
- 2024 第9回トリエンナーレ豊橋『星野真吾賞展』入選
- 2025 第9期公益財団法人クマ財団 クリエイター奨学金 奨学生
- 2025 京都芸術大学大学院 博士課程 芸術研究科 芸術専攻 在籍

主な展覧会

- 2023 第52回装研会（京都府立文化芸術会館 / 京都）
- 2024 『いちめんのなのはな』（京都芸術大学 / 京都）
- 2024 春の賛歌展 Vol.10 出展作品（東京九段耀画廊 / 東京）
- 2024 第8回京都学生アートオークション（京都高島屋 S.C. [T8] 6階 蔦屋書店 SHARE LOUNGE / 京都）
- 2024 14th 上賀茂神社アートプロジェクト
- 2024 Art for Gift2024（梅軒画廊 / 京都）
- 2025 『よるべを紡ぐ』（アートスペース余花庵 / 京都）
- 2025 アート OHARA 国際展（AIR 大原 / 京都）

2025 年 9 月 9 日（火）から 14 日（日）

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

碓 栞奈 個展

IKARI Kanna solo exhibition

KUNST

ARZT

www.kunstarzt.com

あわいがふれる

Boundaries blur

アーティスト・ステートメント

現世と常世の融合をテーマに幽霊画を制作している。絹やアクリル板などの反射・透過系素材、白色顔料を用いて不安定な存在を描く。現在、寒天引きによって発生する虹色の輝きなどの現象と描写を組み合わせた幽霊表現を研究・制作している。現象による表現は視覚として認識できるようなできないような曖昧なものであり、場合によっては本来使用している素材とは別素材であると勘違いさせるような「わからない」面白さがある。寒天液やドーサ液といった皮膜が形成される液体を塗布することによって生まれる虹色の輝きは、見る角度によって現れたり消えたりする特性を持つ。これはまさに幽霊の「そこにいるようでいない、いないようでそこにいる」という曖昧な存在感を視覚的に表現するものである。死者と生者、現世と常世は完全に分けられるものではなく、常に隣り合い、触れ合うものであると考えて、表現を模索している。



うらみの蠕動

2025年 | 絹本着色、透かし表現 | サイズ可変

私は幽霊のような人間だ。離れた者に対してどこまでも執着を募らせ、忘れることなく心に繋ぎ止めようと足掻く。その代償は必ず回ってくるだろう。誘蛾灯のような、あの人たちと同じ終わり方はできない。還ることも出来ないそれでも、これが私の在り方かもしれない。



揺らぎが朧ぐ

2023年 | 絹本着色、軸装 | 490×490mm

『化物の正体見たり枯尾花』 横井也有
朧げなままにしておこうか。
幽霊なのか、違うのか。
この揺らぎが離れるまで。

すぎる

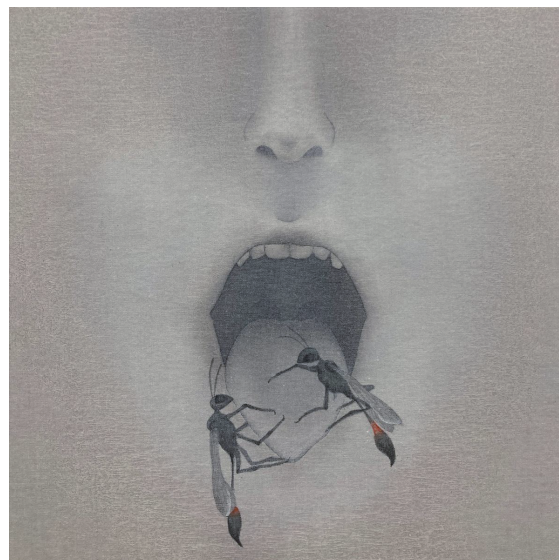
2024年 | 絹、アクリル板、胡粉、墨、岩絵具、パール顔料、アルミ箔、透かし表現 | 1510×785mm

誰かの中の私

私の中の私

どちらも私に似ているのならば

これほど喜ばしいことはない



餐ーわたしというかたちの歪みー

2024年 | 絹、胡粉、墨、岩絵具 | 180×180mm

私のかたちが歪んでいく。

私が私であることに、どれほどの意味を持つのだろうか。